

第1回ひょうごスマートシティ推進検討会の振り返り

1 全国のスマートシティの現状と課題（南雲アドバイザー）

- スマートシティの取り組みは次のフェーズに入りつつあり、実装段階、運用段階に入る自治体が増えている。事業者間、都市間の連携が当たり前になってきており、他自治体と連携する広域の取り組みが増えている。
- 今後は、リアルな世界の単位とデジタルの世界の単位をどう重ねていくかの検討が重要になる。国土形成計画で地域生活圏の考え方が30万人単位から10万人単位へと小規模化する中で、それぞれの生活基盤とデータ連携基盤の二重構造をいかに設計するかが重要な課題
- 地域のサステナビリティを考えると、産業と大学が連携する共創の場、イノベーションコモンズの形成が鍵になる。

2 兵庫県内のスマートシティの取組と今後の可能性（木南課長）

- 行き先がわかっていないと、たどり着けない。スマートシティでどんな未来をつくりたいかを考えることが大切
- 県内ではデジタル田園都市国家構想交付金によるデジタル実装の取り組みが拡大（R3～4：計30市町63件）
- ゼロからはじめるのではなく、全国の先行事例に学び、既存の蓄積や経験を活用することが大切。鍵は「データ活用」であり、すべての自治体が手持ちの資源で取り組める。スマートシティの取り組みを県全域へ広げていきたい。

3 モデル市からの取組紹介

- **三木市**
バス置き去り防止、交通事故ゼロ、スマートツーリズムなどに取り組んでいる。民間企業との連携や、各分野施策の相互連携により市民サービス向上を目指す。
- **姫路市**
共創パートナーを募り意見交換、情報発信を進める。デジ田Type3として連携基盤、体制構築、市民PF整備を予定。医療分野からマイナカード活用の取り組みを推進
- **三田市**
さんだ里山スマートシティ構想を策定。行政サービスのデジタル化を市民に使ってもらう工夫をしながら推進しているほか、ロゴ募集など市民参画の取り組みも推進
- **加古川市**
見守りカメラ、見守りサービス、浸水センサ等のサービスを推進。データ連携基盤の広域連携、Decidimによる市民参画、Well-beingの取り組みなど多角的に推進
- **加西市**
地域通貨を軸にした取り組みをデジ田Type2でデータ連携基盤を活用して推進。SDGs未来都市、脱炭素先行地域としても取り組みを推進
- **養父市**
地域自治組織の活性化に向けて掲示板機能を整備。デジタルクーポン、健康アプリなども展開。物理的距離が社会参画の妨げにならない仕組みづくりを進めている。

4 総括（南雲アドバイザー）

- 良いところ取りをしあえるよう情報共有するのが第一歩。その意味で良い情報交換の場になった。
- 官民連携が重要だが、一気に間口を広げず、地元企業と組むなどある程度フォーカスした形で進めるのがよい。
- 実証をたくさんやるだけでなく、実装につなげていくことが重要。キーサービスを一つでもよいのでやり遂げることが大事
- 地域の資源に自信を持ち、地域ごとの味を出していく着眼点が非常に重要。それが長く続けていく鍵にもなる。